

1116. Invariante Masse III

中野 秀五郎

§7. 準測度

定理5、定理2の拡張がハアリマスが所謂 *locally bicomact* のとき、Haar measure の存在は直ちには誘出される譯は参りませう。故に以下この問題を考へて見ませう。

\mathcal{R} が *locally bicomact*、又 *regularly open* $U = \text{int } \bar{U}$ なる \bar{U} が *bicomact* となるものを 近傍 と云ふことにする。

定義2. \mathcal{R} の μ なる近傍 U 、函数 $Q(U)$ が次の条件を満足すれば 準測度 と云ふことにする。

- 1) $0 \leq Q(U) \leq +\infty, \quad Q(\emptyset) = 0$
- 2) $U_1 \subset U_2$ ならば $Q(U_1) \leq Q(U_2)$
- 3) $Q(U_1 \oplus U_2) \leq Q(U_1) + Q(U_2)$

($U_1 \oplus U_2$ は $\overline{U_1 + U_2}$ 、offener Kern)

準測度 = 定義1、如く = *weak topology* を入れますと、豫備定理1と同様にして、定理が証明出来た。

豫備定理4. 任意の近傍 $U_0 (\neq \emptyset)$ に対し $Q(U_0) = 1$ となる準測度全体は *bicomact* である。

\mathcal{O} が近傍ノ集合デ

$$\mathcal{O} \ni U, U \supset V \text{ 十ラバ } \mathcal{O} \ni V$$

十レモノトシマス。

定義 3. 準測度 Q ト近傍ノ集合 \mathcal{O} トアリテ、若シニ

$$U \cap V = \emptyset \text{ 十ラバ } Q(U \cup V) = Q(U) + Q(V) \quad (U, V \in \mathcal{O})$$

ノ満タス \mathcal{O}, Q = 對シテ常ニ

$$Q(U \cup V) = Q(U) + Q(V)$$

デアルトキ、 Q ハ $\text{mod } \mathcal{O}$ デ加算デアルト云フコトトシマス。

然ルトキハ明カニ Q が $\text{mod } \mathcal{O}$ デ加的。又 $\mathcal{O} \subset \mathcal{O}'$ 十ラバ、又 Q ハ $\text{mod } \mathcal{O}'$ デ加的デアリマス。又簡單ニ次ノ定理ガ証明出来マス。

豫備定理 5. $\text{mod } \mathcal{O}$ デ加的十準測度ノ全体ハ $bicompact$ デアリマス。

豫備定理 6. \mathcal{R} ノ連続変換 T デ $invariant$ 十準測度ノ全体ハ $bicompact$ デアリマス。

§8. 定理 2ノ擴張

定理 6. \mathcal{R} ノ $locally\ bicompact$. \mathcal{F} ノ変換群デ次ノ條件ヲ満タス点 x_0 ガアルトシマス。

1) 任意ノ点 x 及ビ其ノ近傍 $U = \text{對シテ}$, x_0 ノ近傍 V 及ビ x_0 ノ近傍 V' ヲ適當ニ與ヘレバ $T \in \mathcal{F} = \text{對シ}$

$$\underline{\nabla(T\nabla_0) \neq 0 \quad \text{+ レバ 常} = T\nabla_0 \subset \nabla}$$

2) x_0 / 任意 / 近傍 $U = \text{對シ}$ 、 $TU (T \in \mathcal{Y})$ /
全体 \mathcal{R} を cover スル コト が 出 来 ル。

然ルトキハ 近傍 $U_0 = \text{對シ } m\bar{U}_0 = 1 + \nu \text{ invariant measure が存在シマス。$

証明. x_0 / 近傍 $U = \text{對シ } TU \supset \nabla (T \in \mathcal{Y})$
 + $\nu \nabla$ / 全体 \mathcal{R} を cover スルコト、 $\text{mod } \mathcal{O}_0$ へ 加 的。
 $Q(U_0) = 1$ 。 然ルカ \mathcal{Y} へ invariant + 準測度 Q
 / 全体 \mathcal{R} を cover スルコト、豫備定理 4.5, 6 = コリ \mathcal{R}_0
 ハ bicomact である。 然ルカ \mathcal{Y} へ 有限個 $\mathcal{R}_1, \dots,$
 \mathcal{R}_n ハ 必ず 共有点がある。 如何ト + レバ $U \subset$
 $U_1 \dots U_n$ + νx_0 / 近傍 $U = \text{對シテ } | \text{fact} |$ 如ク

$$Q(\nabla) = \frac{\overline{\nabla} \text{ を cover スル } TU \text{ の 最小個数}}{\overline{U_0} \text{ を cover スル } TU \text{ の 最小個数}}$$

トオケバ 準測度 Q ハ $\text{mod } \mathcal{O}_0$ へ 加 的、 然ルカ $\text{mod } \mathcal{O}_i$
 ($i = 1, 2, \dots, n$) へ 加 的 である。 又 $\text{mod } \mathcal{Y} =$
 Invariant である。

\mathcal{R}_0 / スベテノ $U = \text{對スル 共通部分}$ が 従ッテ 存
 在シマスカラ、 其ノ一ツヲ m トスレバ 任意ノ $\nabla_1, \nabla_2 =$
 對シ $\overline{\nabla_1}, \overline{\nabla_2} = 0$ + レバ

$$m(\nabla_1 \oplus \nabla_2) = m\nabla_1 + m\nabla_2$$

である。 如何ト + レバ、 $\overline{\nabla_1}$ ハ

$\overline{\nabla_1}$ / 有限個ノ点 x_1, \dots, x_n 及ビソノ近傍 U_1, \dots

----, $\mathcal{U}_n = \tau$ cover すれば, 然れども $\overline{U}_i \overline{V}_2 = \emptyset$ となら
 ず。

假定, 1) により, α_0 の近傍 V が適当な定数 ϵ により,
 $\overline{U}_i \cap V = \emptyset$ となる, $\overline{U}_i \overline{V}_2 = \emptyset$ とならば, m の \mathcal{U}_0
 を含み得るから $\text{mod } \mathcal{U}_0$ で加法的な意味で, 等式が成
 立する。

次に任意の点 α 及び其の近傍 $V_0 = \{x \in V, C \subset V_0\}$
 を与え

$$m V_0 = \sup_{V, C \subset V_0} m C$$

上の近傍 V_0 の存在が容易に証明出来る。(参考
 Topologische Masse 参照). 此の如き V_0 の
 全体 \mathcal{U} を m の \mathcal{U}_0 の Grundsystem とする
 topologische Masse とする。然れども $m \overline{U}_0$
 $= 1 = \tau \mathcal{U}$ に関し invariant なることが
 示される。又 $m \mathcal{U} < \infty$ なることは \mathcal{U} が $\tau \mathcal{U}_0$ の有限個の
 cover されることより明らかである。

定理 6 = 於て, 1) の α_0 を任意にとれば, 2) = 於て
 \mathcal{U}_0 の \mathcal{U}_0 ($T \in \mathcal{U}_0$) が \mathcal{U}_0 を cover する \mathcal{U}_0 が少くとも
 一つ存在する ことが示される。如何にとれば, \overline{U}_0 を α なる
 任意の点 α に対し, $T \alpha$ ($T \in \mathcal{U}_0$) の closure Ax
 とすれば, Ax は closed 且つ \mathcal{U}_0 が invariant である
 ことが示される。

故=此、如キ Ax 、Durchschnitt トシテ *in-*
variant closed + $R = \text{シテ}$ 、 $R \ni x$ + ル任意 x
 = 對シ、 $Tx (T \in \mathcal{Y})$ 、closure が又ハリ R ト
 + リマス。故 = $R \ni x_0$ + ル一 點ハ *relative space* R
 = テ 定理 6. 1) / x_0 / 後ヲ 致シマス。故 = R / 上ニ
invariant measure m が アリマス。 $R \cap U = \emptyset$ +
 ル $U = \emptyset$ 對シテ、 $mU = 0$ トスレバ、此、 m が \mathcal{R} 上ノ
invariant measure トナリマス。

— 18. 3. 15. —

(西大 = 三六八)